

令和5年度鹿嶋市区長会研修会（8月1日） A班ワークシート

グループ討議 ステージ1

「災害時に困ったことや大変だったこと等」

【土地に関すること】

- ・ 液状化
- ・ 土地境界
- ・ アンダーパス浸水
- ・ 土砂を盛った所は道路が波状に動いた
- ・ 土砂を盛った所を知らない
- ・ 情報がない

【インフラに関すること】

- ・ 水道（断水）
- ・ 突然停電になった
- ・ 避難場所が少ない！

グループ討議 ステージ2

「災害時に必要なモノ・コト等」

- ・ 液状化対策
- ・ 危険を知らせるライト
- ・ 安否確認の為に黄色タオル等を玄関に掲げる
- ・ 防災訓練
- ・ 連絡体制必要（サラリーマンは特に）
- ・ 井戸水の提供
- ・ ミニ消防団の組織が必要
- ・ エンジン式発電機が必要
- ・ 近所の助け合い

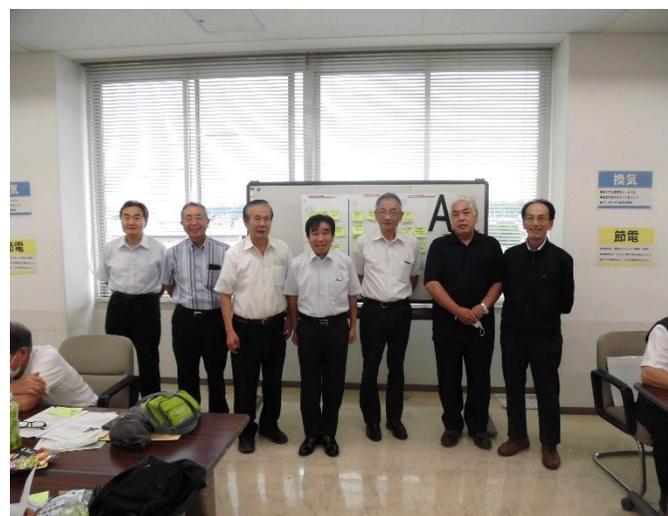
グループ討議 ステージ3

「自治会は今後何をしていくべきか」

- ・ ゴミステーション利用者の会費の差別化
- ・ ゴミ出し難民ボランティア，安否確認
- ・ 少子高齢化，活動が縮小されてきた
- ・ 公園草刈，シニアボランティア
- ・ 有償ボランティア，協働労働
- ・ まつり体験，子供会，人材育成

A班 名簿

地区名	区名	氏名
鹿島地区	角内	吾妻 利彦
	神野	坪井 忠明
	下生	池田 勉
	厨	菅谷 毅
	緑	三澤 美津男
鉢形地区	平井丘	小古井 芳一
波野地区	北宮津台	木村 和治



令和5年度鹿嶋市区長会研修会（8月1日） B班ワークシート

グループ討議 ステージ1

「災害時に困ったことや大変だったこと等」

- ・ 区長として何をすべきか、何ができるのか
- ・ 高齢化の問題（自分で対応できない—自治会
役員の責任重い）
- ・ 停電時の対応
- ・ 情報の問題（市役所から無し）
- ・ 電話不通，安否確認
- ・ 高齢化への対応
- ・ 地区単独の停電（宮中南，神野附）→集会所
の井戸開放，市として何もしてくれない
- ・ 水，食糧，電気，携帯（スマホ），インフラ
- ・ 6月2日大雨災害時は避難所と市の体制がで
きていることが安心

グループ討議 ステージ2

「災害時に必要なモノ・コト等」

- ・ 役員 日頃から自治区の実態把握
- ・ 停電時の対応策を学習する機会を設ける
- ・ インフラが止まった時の対処方法を整理して
おく
- ・ 東山—宮中南 非常時連絡網
- ・ 非常用電話，水
- ・ 非常時のマニュアル，連絡体制（LINEネット）
- ・ 非常時の連絡網を作りたい
- ・ 集会所の水道の活用
- ・ 道路脇に大雨によるシンクホール→市に通報
し対処
- ・ 三笠西区内の道路狭小，木枝が伸びて道幅が
小さい，対応困難

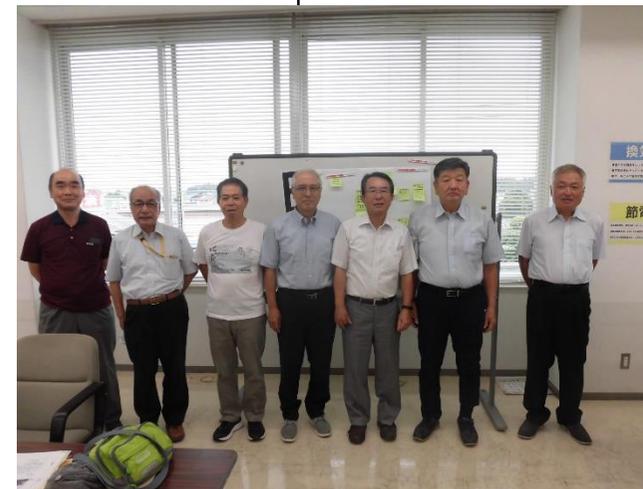
グループ討議 ステージ3

「自治会は今後何をしていくべきか」

- ・ 自治会の存在価値—行政と市民の窓口（非常
時，苦情）
- ・ インフラ停止時等の緊急事態における対応
（困ったときのルート確認）

B班 名簿

地区名	区 名	氏 名
鹿島地区	根三田	小神野 宏
		石川 克己
	神野向	厚井 寿弘
	宮中南	道本 博俊
三笠地区	東山	岩佐 福一
		鴨志田 幸弘
	三笠山西	東風平 玄俊



令和5年度鹿嶋市区長会研修会（8月1日） C班ワークシート

グループ討議 ステージ1

「災害時に困ったことや大変だったこと等」

- ・ 河川沿いなので水位上昇が気掛かり
- ・ 大雨で排水の水位が上がり心配した
- ・ 大雨で水位が上がり夜中の3時から排水施設で作業した
- ・ 大風で寺山の樹木が倒れる
- ・ 排水ができず床下浸水が心配された（1件）
- ・ 6/3昼頃に雨が1段落したので何とか洪水まですでいかなかった
- ・ 防災無線が聞こえない
- ・ 大雨後、湖岸にゴミが大量
- ・ 土砂災害警戒区域にあるが、避難指示（レベル4）が真夜中に出ても避難する世帯はなかった。避難しようかどうか迷っていた。
- ・ 会社勤めが多く、消防団の出動も実質困難

グループ討議 ステージ2

「災害時に必要なモノ・コト等」

- ・ 地域の情報を把握しておく
- ・ 近所（組内）の人と常に避難することについて話し合いをしておく
- ・ 防災無線以外の災害情報を把握できる方法をとっておく
- ・ 区長が民生委員等との連携をとる
- ・ （レベル4の避難指示が出ても避難するかどうか迷っていたので）近所の人と連絡を取り合って避難するかどうか相談できたらよかったのかもしれない。

グループ討議 ステージ3

「自治会は今後何をしていくべきか」

- ・ 世帯数が少なく担い手が減っている
- ・ 地区の行事に参加できる人が少ない
- ・ 区長等の役員が若年化して、会社との掛け持ちとなっているため、負担が大きい
- ・ 自治会への加入件数が減っている
- ・ 小さい単位（5~6軒）で健康（ラジオ体操等）の井戸端会議をする（幸せのホルモン）。毎日ではなく、週1~2回
- ・ 高松まつりなどを再開して交流を行っている

C班 名簿

地区名	区名	氏名
高松地区	木滝	木滝 道章
	栗生	宮崎 治
	泉川	宮沢 正人
	鰐川	笠貫 晃
		岡田 貞光
	下埜	額賀 均



令和5年度鹿嶋市区長会研修会（8月1日） D班ワークシート

グループ討議 ステージ1

「災害時に困ったことや大変だったこと等」

- ・ 飲料水がない
- ・ トイレ、洗濯ができない
- ・ ガソリン不足
- ・ 道路に凹凸ができ車が通れなくなった
- ・ 隆起等で道路が通れなかった
- ・ 水道が止まった
- ・ 水道が止まり、困った
- ・ 断水のため近所の井戸の家庭より水を頂いた
- ・ 被害地への水の購入が困難
- ・ 道路、水、飲料水
- ・ ガソリンスタンドに油が無かった
- ・ ガソリンが手に入らない
- ・ 電話が繋がらず安否確認ができない
- ・ 家族との連絡が取りづらい
- ・ 生活必需品の購入が困難
- ・ コンビニに食料が無くなった
- ・ 避難所に食べ物や飲み物が十分になかった
- ・ 家が傾いたので住みずらくなった
- ・ 地震のとき家族の避難場所が中々分からなかった。時間がかかった

グループ討議 ステージ2

「災害時に必要なモノ・コト等」

- 水ペットボトルの準備
- 地下水の利用
- ストックできない
 - ・ 水道水（地下水）の有る家で水をもらい、風呂に入れてもらった
 - ・ 使える飲料水（地下水、井戸水）の情報共有、隣近所との情報交換
 - ・ 会社は井戸だったので対応した
 - ・ 食糧、飲料水の確保
 - ・ 昔ながらの手動手押しポンプがあると便利
 - ・ 給油所の情報交換
 - ・ 各生活必需品（ガソリン、ガス）の店との連携
 - ・ 避難所設定
 - ・ 土手際の建物が崩れる危険があったので撤去した
 - ・ 各地区の公民館に防災倉庫ができた（発電機等）
 - ・ 灯油ストーブを買った
 - ・ たまたまキャンプ用具が色々あったので重宝した

D班 名簿

地区名	区名	氏名
平井地区	平井北	内野 正克
		栗山 人士
	平井南	藤岡 茂雄
		須之内 忠義
	平井別荘	座間味 是吉
平井押合	吉田 博	
	鴻池運輸 鹿島寮	椎木 勇一

グループ討議 ステージ3

「自治会は今後何をしていくべきか」

- ・ 地域住民との日常的なコミュニケーション（見守り、巡回、声かけ）※自治会加入者と未加入者への対応をどうする
- ・ 資源ごみは区以外の人も来る
- ・ 一人暮らし老夫婦世帯への区としての繋がり
- ・ 子ども会が少なくなっている今、学校関係との繋がり
- ・ コロナ禍で盛り上がりが減ったが、これから盛り上げて繋がりを増やす
- ・ 子ども会、消防団、老人会…各種の繋がりを増やしていく
- ・ シニア→若者→児童・生徒との繋がり、地区行事の継承
- ・ 飲みニケーションの復活



令和5年度鹿嶋市区長会研修会（8月1日） E班ワークシート

グループ討議 ステージ1

「災害時に困ったことや大変だったこと等」

- ・大雨による道路冠水（3ヶ所）
- ・大雨時の水門調整
- ・洪水 床下浸水⇒防災課⇒土地改良⇒排水P
- ・水門 消防団
- ・連絡体制
- ・杉の木が折れお寺の屋根ぐしが壊れた
- ・当管理地区内の墓地参道が一部崩れかけた
- ・集落センターに避難場所としての役割を満足場所がない

グループ討議 ステージ2

「災害時に必要なモノ・コト等」

- ・災害時の連絡体制（地区→防災課⇒担当部署）
- ・避難経路の確認
- ・古くなった施設（お寺、集会所）の維持管理

グループ討議 ステージ3

「自治会は今後何をしていくべきか」

- ・近隣住宅で声を掛け合う
- ・報告や情報を集める手段・手順を決定しておく
- ・情報を集約させる
- ・安否情報の集約方法を決めておく
- ・安否確認のルール・システムの策定
- ・住民からの意見に素早く対応する
- ・諦めないでやれる事をやっていく気持ちを持つ

E班 名簿

地区名	区名	氏名
豊津地区	大船津第3	小亀 祐一
	爪木	今泉 富司
		重田 敏美
中野西地区	奈良毛	河野 巖
大同西地区	掛崎	須賀田 勇一



令和5年度鹿嶋市区長会研修会（8月9日） A班ワークシート

グループ討議 ステージ1

「災害時に困ったことや大変だったこと等」

- ・大雨のときに側溝が詰まっている。
- ・停電の時に困った。
- ・コロナ
- ・集落センターの老朽化
- ・集落センターがあまり使われておらず、直す以前に活用方法を見出さなくてはならない。
- ・区と市の連携が取れていない。
- ・後継者をつくらない。
- ・年代がバラバラでまとまりがない。

グループ討議 ステージ2

「災害時に必要なモノ・コト等」

- ・集落センターを避難所として使えないか（避難所登録制度）
- ・停電でも活用できるセンターを確認
- ・クラウドファンディングで集会所修繕の資金を募る
- ・住民の情報

グループ討議 ステージ3

「自治会は今後何をしていくべきか」

- ・それが分かれば苦労しない。

A班 名簿

地区名	区名	氏名
大同東	大志崎	郷州 満
	小志崎	飯島 伸
	浜津賀台	新井 章治
	青塚	山田 清和



令和5年度鹿嶋市区長会研修会（8月9日） B班ワークシート

グループ討議 ステージ1

「災害時に困ったことや大変だったこと等」

- ・大雨で通学路が冠水
- ・側溝のつまり。台風時に大水になる。
- ・草刈りした草が水路に落ちて水路が詰まる。
- 小山不動の滝 国道51号の排水管
 - 生活排水が流れてくる水路を土地改良区で整備した。
 - 国道51号にも葉っぱが流れてくる（台風の時に作業した）ので、管の入口（水路）に柵を入れてもらった。
 - （今までの区長が柵を掃除していた。）
 - 6/2大雨で流れたビニール袋（肥料袋）等のゴミが第1柵で詰まり、畑が冠水してしまった（芋が腐る等の被害があった）。
 - 畑の農家から「柵を外してくれ」と言われるが、柵を外してしまうと下流の住宅が床下浸水してしまう。
 - 畑を使っているのが外国人研修生で清掃をする習慣がないのでゴミが詰まる。

グループ討議 ステージ2

「災害時に必要なモノ・コト等」

- ・水路にゴミが入ってこないようにする。
（ゴミ→マルチ⇄ビニール）
- ・ゴミを持ち帰る（外国人、管理者、畑の持主）
- ・ゴミの除去について畑の持主へアドバイス
- ・自治会からゴミを捨てないようにPR
- ・台風や大雨の前にはゴミが発生しそうな所の総点検（→畑の持主へ伝える）

B班 名簿

地区名	区名	氏名
中野東	角折	村山 久一
	荒野	堺田 貞良
	小山	高田 瑞穂
	荒野台第2	平石 正
	荒野台第3	今泉 洋一郎

グループ討議 ステージ3

「自治会は今後何をしていくべきか」

- ・高齢者に区から抜けないでほしいので、奉仕作業（掃除、ゴミ拾い、草刈り）はやらなくていい。やれる人でやる！繋がり→安否確認
- ・区費の免除（15/年）
- ・自警団について 中野自警団防犯パトロール



令和5年度鹿嶋市区長会研修会（8月9日） C班ワークシート

グループ討議 ステージ1

「災害時に困ったことや大変だったこと等」

- ・ 災害時の自警団のあり方（以前，道路で倒木があり，自警団に対応を依頼したところ断られてしまった。市から補助金をもらっているのではないか!?)
- ・ 停電が困る（水道，井戸）
- ・ 大排水路のつまり

グループ討議 ステージ2

「災害時に必要なモノ・コト等」

- ・ 浸水エリアでの避難準備，避難場所の確認
- ・ 災害時の生活水の確保（井戸水）
- ・ 独居老人の安否確認
- ・ 施設の管理（排水路，堤防，水門）

グループ討議 ステージ3

「自治会は今後何をしていくべきか」

- ・ ゴミステーションと自治会加入
- ・ ゴミステーション，区の行事（三笠）
- ・ 資源ゴミ
- ・ 区長になって仕事の多さにびっくりした。誰も教えてくれない！

C班 名簿

地区名	区名	氏名
中野西	居合	西溪 一男
	中	武井 太郎
大同西	額賀	中川 貞雄
三笠	三笠北	正田 壽



令和5年度鹿嶋市区長会研修会（8月27日） A班ワークシート

グループ討議 ステージ1

「災害時に困ったことや大変だったこと等」

- ・三笠地区はあまり大きな被害が無く、ユーティリティ被災
- ・三笠地区は災害に強い（電気・水道OK）
- ・三笠地区は火災等がなかった
- ・断水等も思ったより少なかった
- 危機感が薄い（防災設備の点検体制が強化されていない）
- ・地域外の人が公民館を利用して一杯だった
- ・域外の人が多かった（避難所）
- ・電話、メールができなかった
- ・家族との連絡がとれない
- ・家族の安否確認できず（携帯不通）
- ・家族の安全確認（携帯・メール×）
- ・学校が休校になったものの、連絡メールのサーバーダウンにより連絡不能になった
- ・区内の安否確認はしたのか、特に区長として…
- ・ガソリンの確保（水・食糧は充足）
- ・ガソリンスタンドで車の行列
- ・ガソリン不足
- ・ガソリン不足が続いた
- ・コンビニが休業するくらい売物がなくなっていた
- ・コンビニが空っぽ。電池etcの物品不足
- ・職場と地域の差（職場優先になってしまう）
- ・震災の時に家にいられなかった（三笠地区は企業人が多い）

グループ討議 ステージ2

「災害時に必要なモノ・コト等」

- ・食糧、水、電気、ガソリン
- ・バッテリーや充電器、発電機等も考えておく
- ・避難所に常駐する役
- ・避難所のリーダーがいるか分からない。誰でもできる体制、人材が必要
- ・運営組織の多重化
- ・連絡網
- ・地域内での家族・近所の安否確認の手段
- ・それぞれの関係先との連絡手段（1つの方法ではなく他の方法も考える）
- ・自治会に加入していない人の対応（災害弱者）

グループ討議 ステージ3

「自治会は今後何をしていくべきか」

- ・自治会加入問題
- ・自治会未加入と退会の問題
- ・自治会加入者高齢化で地区行事参加が固定化（スポーツ大会）
- ・区費を減額して加入を促してみる？
- ・ゴミ問題
- ・未回収ゴミ袋問題（ゴミ出しルール違反）
- ・時間外に持ってくる人がいる
- ・通りすがりのポイ捨てが多い
- ・犬猫の死骸を捨てられる

A班 名簿

地区名	区名	氏名
三笠地区	三笠山東	市田 信道
	三笠山西	後藤 健一郎
	高天原栗生団地	渡部 忠男
	板宮	宮沢 政治
	下津ヶ丘	安藤 道義
	宮津台	宮田 幸嗣
		天海 真紀
神野附	宇田 一男	



令和5年度鹿嶋市区長会研修会（8月27日） C班ワークシート ※B班は人数が少なかったためC班へ統合

グループ討議 ステージ1

「災害時に困ったことや大変だったこと等」

<6/2大雨災害>

- ・冠水して通行止め，自動車水没
- ・排水路が無く宅地内がオーバーフロー
- ・排水が流入した自宅があり応援要請された
- ・大雨時にアンダーパスができる所がある
- ・家の屋根が雨漏れ，瓦が飛んだ
- ・一か所崖崩れあり（通路として他あり）
- ・倒木して道路が通行できない
- ・6/2区内を巡回した
- ・大雨の報道で一人暮らしの方が怖かった（避難場所が遠い，どうしたらいいか）
- ・自治会としての避難場所を確保していない

<東日本大震災>

- ・道路（下道）の陥没
- ・水道が止まった
- ・停電→冷蔵庫（食品），情報が入らない
- ・家の瓦が大量に落ちた（瓦の処分）
- ・住める状態ではなくなったので，子どもの家の世話になった。
- ・87歳の母親が家に閉じ込められ助けを求めた

グループ討議 ステージ2

「災害時に必要なモノ・コト等」

- ・沼尾団地の避難所→豊郷公民館，遠い！早めの判断難しい
- ・道路が異常の時，安全道路が分からない
- ↓
- ・災害時のハザードマップの確認
- ・ハザードマップの作成と活用
- ・避難場所を明確にしておく
- ・防災訓練の定期化（毎年）
- ・災害体制を地区毎に構築する
- ・地区内防災組織に沿って助け合う
- ・情報の共有
- ・情報を住民たちで共有，声かけ
- ・大雨時，台風時は巡回する
- ・ブルーシート等の屋根の養生材を準備しておく
- ・地区の井戸水をトイレ等に利用（東日本大震災時）
- ・断水：地区井戸ポンプあり→トイレ等に利用
- ・停電：自宅発電機あり→照明灯に利用

C班 名簿

地区名	区名	氏名
豊郷地区	田谷	笠貫 順一
	泉田	坂本 一久
	沼尾団地	木下 吉史
		大泉 重三郎
鹿島地区	安崎	佐藤 利平
		沼田 嘉之
鉢形地区	鉢形北	佐藤 淳雄
中野東地区	角折	田口 茂

グループ討議 ステージ3

「自治会は今後何をしていくべきか」

- ・ゴミステーション毎に防災体制を構築する
- ・非常時を想定した備え，日頃からの周知，訓練等
- ・自警団の充実
- ・高齢者（75歳以上）の自治会費を支援する
- ・一人暮らしのゴミ出し支援
- ・個人情報の開示（区長把握していない）
- ・情報のデジタル化
- ・団地内の会合，話し合いを多く
- ・地区の交流を行う
- ・各世帯とのコミュニケーション
- ・日頃から住民の付き合いの大事さを広める
- ・新規住人への自治会入会案内
- ・入会案内を持って説明に行く
- ・自治会加入率を上げる？メリット・デメリットの説明が必要
- ・不動産会社に自治会への加入を勧めてもらう



令和5年度鹿嶋市区長会研修会（8月27日） D班ワークシート

グループ討議 ステージ1

- 「災害時に困ったことや大変だったこと等」
- ・ 家族との連絡方法
 - ・ 高齢者の安否確認
 - ・ 市役所の放送が聞こえない
 - ・ 地区の集会所が避難所ではない
- <6/2大雨災害>
- ・ 近所の状況の情報（避難者がいた事実を知らなかった）
 - ・ 排水路が詰って雨水がオーバーフロー。民家で水害の恐れが出た
 - ・ 水が庭に入ってしまったと3戸から連絡があった→市の施設管理課に相談した
 - ・ 道路歩道に隙間ができて、木で応急処置してあったが、市に連絡はした
- <4年前の台風19号>
- ・ 停電で非常に困った（食事、水、風呂）
 - ・ 建物が破壊され隣接する家屋に被害が出た
- <東日本大震災>
- ・ 瓦が落ちた。自分も足を怪我した
 - ・ 瓦が落ちたがブルーシートが無くなり対策に苦労した
 - ・ 地区の家の瓦の処理。部落の人の助けで4軒程の瓦を片付けた

グループ討議 ステージ2

- 「災害時に必要なモノ・コト等」
- ・ 地区内の連絡系統をしっかりと把握しておく
 - ・ 近所の家と早めの安否確認に協力
 - ・ 各地区各班毎に安否確認名簿を作成し対処
 - ・ 各家庭にFMラジオを配り放送内容の確認ができるように
 - ・ 道路の凹凸等を写真に残し、電柱No.を記載して連絡していく
 - ・ 排水路の位置を理解しておく
 - ・ 上下水が破損した場合の対策
 - ・ 地区、家毎に水流す場所を写真等に残しておく
 - ・ 井戸水を飲めるように装置を付ける
 - ・ 最低でも非常用常備品を用意しておく（懐中電灯・ラジオ・水ほか）→枕元に置いておく
 - ・ 非常用物資（ブルーシート、土嚢袋、飲料用ポリタンク、非常食）
 - ・ 瓦対策：2階をスレート、1階を瓦にした
 - ・ 地区集会所の機能充実（災害対応）

D班 名簿

地区名	区名	氏名
波野地区	清水	宗島 正彰
	明石	内野 明広
	神向寺	大川 謙一
	小宮作	大川 文一
	下津	中山 正信
	清水新田	黒澤 浩
	東宮津台	小室 松雄

グループ討議 ステージ3

- 「自治会は今後何をしていくべきか」
- ・ 高齢者世帯の増加による課題対応（ゴミ、移動手段、安否確認、孤立）
 - ・ 地区の役員は災害弱者を把握して避難計画を作成している
 - ・ 子どもを介した若い世代の参加（子ども会、PTA）
 - ・ 子どもを巻込んだ内容の物を多く取り入れ若者世帯を取り込む！
 - ・ 子ども会等、関係の深いところから参加してもらうように働きかけていく
 - ・ 若い人がもっと参加できる、参加したいと思えるような、何か新しい行事の考案があれば
 - ・ 小学校との合同行事もあった方が良いのでは
 - ・ 子どもたちに伝えていけるような行動を実施していく
 - ・ 世代間の繋がり、交流活動（敬老会、花見会）
 - ・ 回覧板は安否確認の手段である
 - ・ ゴミ袋に戸別番号を記入し出している

